

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第64号

令和6年

3月発行

発行者

広尾町中高一貫教育推進委員会

《中高一貫》 進路講話



〈中学生だった頃の自分へ〉

2月1日（木）、広尾中学校体育館にて「中高一貫進路講話」が開催され、「中学生時代の自分に伝えたいこと」をテーマに4名の広尾高校の生徒が講話を行いました。

山本凌大さんは、大事なことに気付くことができた3年間であったこと、気付くのが遅くて後悔したこと、それでも進路実現するために努力したことなど、わかりやすい言葉を使って具体的に話し、広尾高校だからこそのできたことを伝えていました。

西野りむさんは、小さなきっかけで大きく自分が変わること、自分の強みを認識すること、行動することの大切さについて、表情豊かにありのままの経験を飾らず素直に話し、体育館全体に明るい雰囲気を作り出していました。

増田翔さんは、周囲の人の大切さに気付いて行動することで自分の強みを知り、よい影響を与えることができるということについて話しました。勉強・行事・部活動それぞれにおける具体的なエピソードと、体育館後方の千葉先生を適宜活用した深みのある講話を堂々とやり切っている姿勢は立派でした。

吉田あいらさんは、高校生活で意識して経験した多くの挑戦が、中学時代からの自分を大きく変え、進路活動において強力な武器となった経緯を具体的に話し、変わろうという強い気持ちで180度変わることができるかと力強く中学生を激励しました。

3年前までこの場所で講話を聞いていたという4名の広尾高生たちですが、間もなく高校を卒業して広尾町を離れます。この場所で気付きの種が蒔かれ、数年後に芽が出て花を咲かせるのは今の中学生たちです。この日の講話がそのようなきっかけになる、3年越しで価値を作り出す取り組みとなることを期待しています。

SCCの記録

SCCとは、Secondary Collaborated Class の略称です。これは、多様な能力や様々な適性を持つ広尾の子どもたち一人ひとりに応じた「きめ細かな学習指導」を通して「基礎・基本の確実な定着」を図っていくために、中学校と高校が連携した合同授業や出前授業、TT、チューター学習などを行うものです。

○国語

国語科では、2回のSCCを実施しました。

1月24日（水）、高校の岡部教諭が中学校3年生を対象に写真とテーマをもとに作文を書く活動を行いました。自分の発想や考えを臆さずに表現することの大切さを学ぶ良い機会となりました。岡部教諭から、広尾高校での学びにおいて「自分の考えを表現する」ことが重要事項として掲げられていると聞き、中学3年生は、積極的に自分の表現力を磨きました。



1月25日（木）には、高校の青木教諭が中学校1年生を対象に、書写の授業を行いました。高校生の教材から出された題材に、1年生は目を輝かせながら書写に取り組みました。また、生徒たちは青木教諭のお手本を肉眼で見ることで、「お手本のように書きたい」という気持ちから、一人ひとり一所懸命に練習を重ね、有意義な機会を設けることができました。

○数学

1月28日（火）・30日（木）の2日間、高校の石井教諭、粒針教諭が広尾中学校にて中学3年生の学習をサポートする授業を行いました。学力テストの対策問題に各自で取り組み、複数の数学科教員で個別に指導しました。つまりくところは生徒一人ひとり異なりますが、多くの教員が教室内にすることで、きめ細かい指導を行えたと考えています。中学生も自らの弱点を克服するため、生徒同士や教員に積極的に質問していました。また、普段接点の少ない高校の教員と中学生がコミュニケーションをとる場面も多く見られ、中高のつながりを強める貴重な機会となりました。今後も、定期的に中学生の学習をサポートする機会を設けていきます。

○社会



11月29日（水）4時間目、広尾高校の千葉教諭が「史資料を読むときに気をつけるべきことは」というタイトルのもと、中学校3年生1クラスに対し、授業を実施しました。今年度は高校で「歴史総合」が始まったことを受け、中学校での学習をどのように高校の学びへ繋げるのか、というテーマの中でSCCを実施しました。授業の中では、最初に伝言ゲームや複数の解釈ができる例文をもとに、史資料読解では文脈や背景を確認し、状況に適した読みをすることが重要であるとの確認がされました。その後は、「知識構成型ジグソー法」を用い「8月15日とはどのような日なのか」を日本、アメリカ、朝鮮・韓国の立場からそれぞれの生徒がエキスパート資料の検討を行い、最終的には見解をグループごとに集約する形で授業が進められました。生徒たちからは、8月15日が単なる終戦の日ではなく、それぞれの立場によって歴史的事象の意味合いが異なることが発表されました。

生徒たちからは、「楽しかった」などの声が出てきたと同時に、ではロシアではどうなのか等、新たな質問が出てくることもあり、充実した時間となりました。また、「広尾高校で勉強するのが楽しみです」という意見もあり、次年度以降の歴史学習の接続にもつながる活動となりました。

○理科

11月27日（月）、広尾高校にて実施。広尾中学校より山根教諭が来校し、広尾高校の関尾教諭とともに高校1年化学基礎、化学反応式の量的関係の単元にてTT形式での授業を実施しました。毎年モル計算に苦戦する生徒が多く、きめ細やかな指導が必要になってくる単元であるため、生徒のつまずきを隅々まで支援することができました。



○英語

11月29日(水) 広尾高校の清水教諭、船越教諭が、広尾中学校3年生を対象に Speaking 指導を行いました。英語検定や、中高一貫英語面接を意識し、“May I come in?” で始める入退室から、好きなスポーツ、将来の夢などの応答を英語で実践する授業



です。中学生たちは、最初は英語での受け答えに不安を抱き、緊張している様子でしたが、いざスピーキングの練習

が始まると、元気よく、笑顔でコミュニケーションを取ってくれました。スラスラと答える生徒もいれば、わからないなりになんとかコミュニケーションを取ろうとする姿も見られました。今回の SCC を通じて、英語でコミュニケーションを取ることに意識が高まってくれたら嬉しく思います。



○保健体育

12月5日(火) 3・4校時、広尾高校体育館において、広尾中学校2年生と高校3年生の科目「生涯スポーツ」選択者の合同授業が2時間にわたって実施されました。内容は、高校生から低鉄棒、高鉄棒、マット運動の様々な技の技術を教わりました。中学生の中には、高校生から技のコツを教わり技の完成度が上がった生徒や、今までできなかった技が成功できたと声が上ががり、お互いに積極的にコミュニケーションを図ることで、運動する楽しさや教えることのやりがいを学ぶことができました。



○情報・商業



12月14日(木)、広尾中学校2年生を対象に、広尾高校の岡藤教諭による情報の授業が行われました。生徒は実際にパソコンの操作をしながら、Excel の初歩的な使い方について学ぶことができました。また、高校で行っている情報のイメージが付き、実社会でコンピュータがどのように活用されているか体験できる貴重な時間となりました。

情報部会は今年度新しく開設された部会のため、手探りでスタートとなりましたが、効果的な乗り入れ授業を実施することができました。

中高連携 生徒の活動から

①交通安全街頭啓発運動 9月13日(水)

各校の通常日課が終わった、放課後 16 時から神社公園前の道路にて交通安全啓発運動を行いました。昨年度までは、広尾中学校・広尾高校それぞれ別日で行っていましたが、今年度から同日に行い生徒間での交流もできました。広尾警察署の職員の方々にもご協力いただき、事前に作成した用紙(中学校では「交通安全を呼びかけるイラスト」、高校では「交通安全標語」)を入れたポケットティッシュと眠気覚まし用のガムをドライバーの皆様へ手渡しで配布をしました。活動を行いながら、広尾警察署の方からどのような場所でどのような事故が多発しているかなどを教えて頂き、生徒自身も交通安全の意識が高まるものとなりました。



②中高部活動交流



感染症予防が緩和され、今年度から部活動での交流も再度行われるようになりました。柔道部では、広尾高校の武道場で石井教諭から中高合同で指導を受け、混合で組手練習を行いました。中学生にとっては普段なかなか組むことができない、自分たちより大きな高校生と練習することができ、より質の高い練習となりました。吹奏楽部では、合同で豊似地区のお祭りで合奏をするなど、普段の人数ではできない演奏形態に挑戦することができました。

中高一貫教育だより

～広尾の子どもは広尾で育てる～

第64号

令和6年

3月発行

発行者

広尾町中高一貫教育推進委員会

《中高一貫》 進路講話



〈中学生だった頃の自分へ〉

2月1日（木）、広尾中学校体育館にて「中高一貫進路講話」が開催され、「中学生時代の自分に伝えたいこと」をテーマに4名の広尾高校の生徒が講話を行いました。

山本凌大さんは、大事なことに気付くことができた3年間であったこと、気付くのが遅くて後悔したこと、それでも進路実現するために努力したことなど、わかりやすい言葉を使って具体的に話し、広尾高校だからこそのできたことを伝えていました。

西野りむさんは、小さなきっかけで大きく自分が変わること、自分の強みを認識すること、行動することの大切さについて、表情豊かにありのままの経験を飾らず素直に話し、体育館全体に明るい雰囲気を作り出していました。

増田翔さんは、周囲の人の大切さに気付いて行動することでの強みを知り、よい影響を与えることができるということについて話しました。勉強・行事・部活動それぞれにおける具体的なエピソードと、体育館後方の千葉先生を適宜活用した深みのある講話を堂々とやり切っている姿勢は立派でした。

吉田あいらさんは、高校生活で意識して経験した多くの挑戦が、中学時代からの自分を大きく変え、進路活動において強力な武器となった経緯を具体的に話し、変わるという強い気持ちで180度変わることができるかと強く中学生を激励しました。

3年前までこの場所で講話を聞いていたという4名の広尾高生たちですが、間もなく高校を卒業して広尾町を離れます。この場所で気付きの種が蒔かれ、数年後に芽が出て花を咲かせるのは今の中学生たちです。この日の講話がそのようなきっかけになる、3年越しで価値を作り出す取り組みとなることを期待しています。